

1 趣 旨

みやぎ森と緑の県民条例（平成30年宮城県条例第1号）第27条の規定に基づき、令和7年度の施策の実施状況等について、議会に報告するとともに県民に公表するに当たり、概要を報告するもの。

2 政策推進の基本方向と12の取組

（1）政策Ⅰ 林業・木材産業の一層の産業力強化

- 取組1 県産木材の生産流通改革
- 取組2 県産木材の需要創出とシェア拡大
- 取組3 持続可能な林業経営の推進

（2）政策Ⅱ 森林の持つ多面的機能のさらなる発揮

- 取組4 資源の循環利用を通じた森林の整備
- 取組5 多様性に富む健全な森林づくりの推進
- 取組6 自然災害に強い県土の保全対策

（3）政策Ⅲ 森林、林業・木材産業を支える地域や人材の育成

- 取組7 持続的成長をけん引する経営体や担い手の育成
- 取組8 地域・産業間の連携による地域産業の育成
- 取組9 新たな森林、林業・木材産業関連技術の開発・改良
- 取組10 森林、林業・木材産業に対する県民理解の醸成

（4）政策Ⅳ 東日本大震災からの復興と発展

- 取組11 海岸防災林の再生と特用林産物の復興
- 取組12 地域資源をフル活用した震災復興と発展

3 5つの重点プロジェクト

- （1）新たな素材需給システムと木材需要創出
～年間生産70万m³への挑戦～
- （2）主伐・再造林による資源の循環利用
- （3）経営能力の優れた経営者の育成、新規就業者の確保
- （4）地域・産業間連携による地域資源の活用
- （5）海岸防災林の活用等による震災の教訓伝承と交流人口の拡大

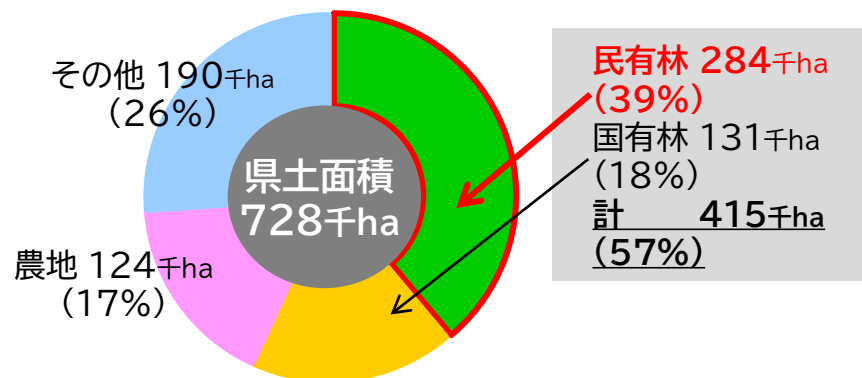
4 報告・公表のスケジュール

議会への報告：9月定例会に提出予定

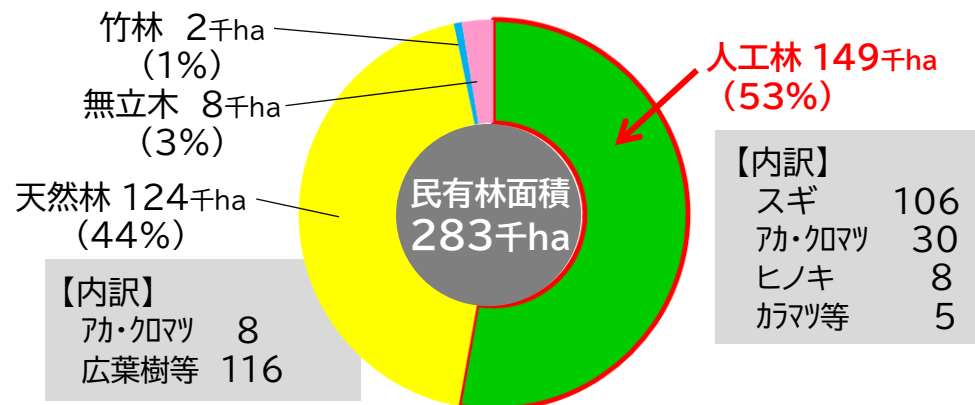
県民への公表：令和8年10月上旬に県ホームページに
掲載予定

宮城県の森林、林業・木材産業の現状

(1) 宮城県の土地利用の現況



(2) 地域森林計画対象民有林の樹種別面積

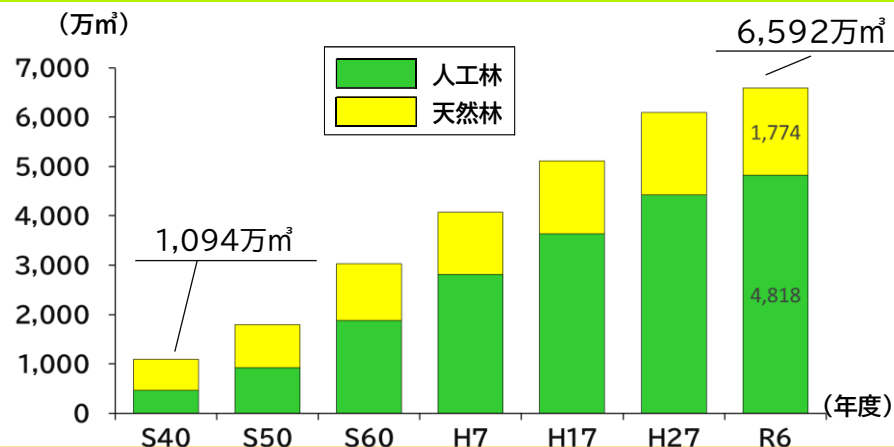


※地域森林計画対象民有林であるため、(1)の民有林面積と一致しない。



▲ みやぎの森林

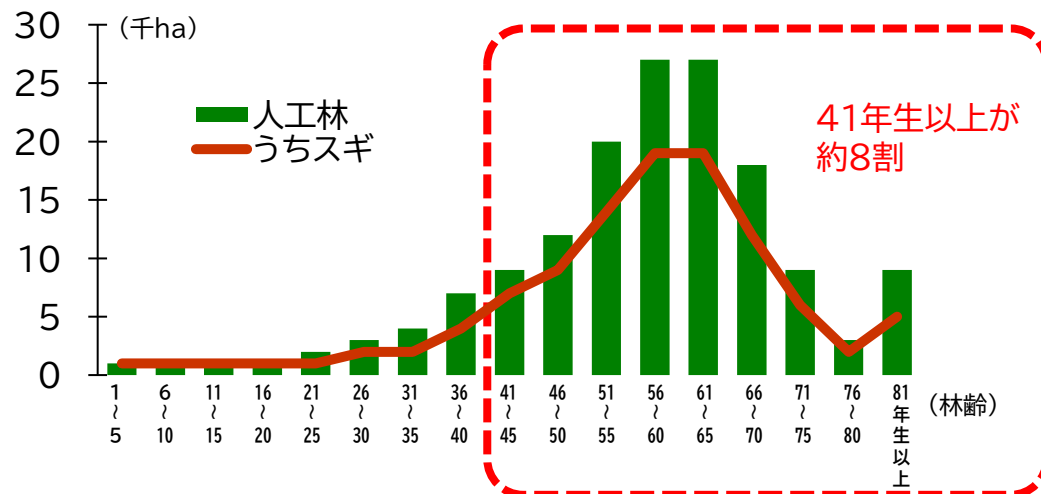
(3) 民有林の材積の推移



森林の材積は年々増加し、昭和40年度の約6倍となっている。

宮城県の森林、林業・木材産業の現状

(4) 人工林（私有林）の林齢別面積

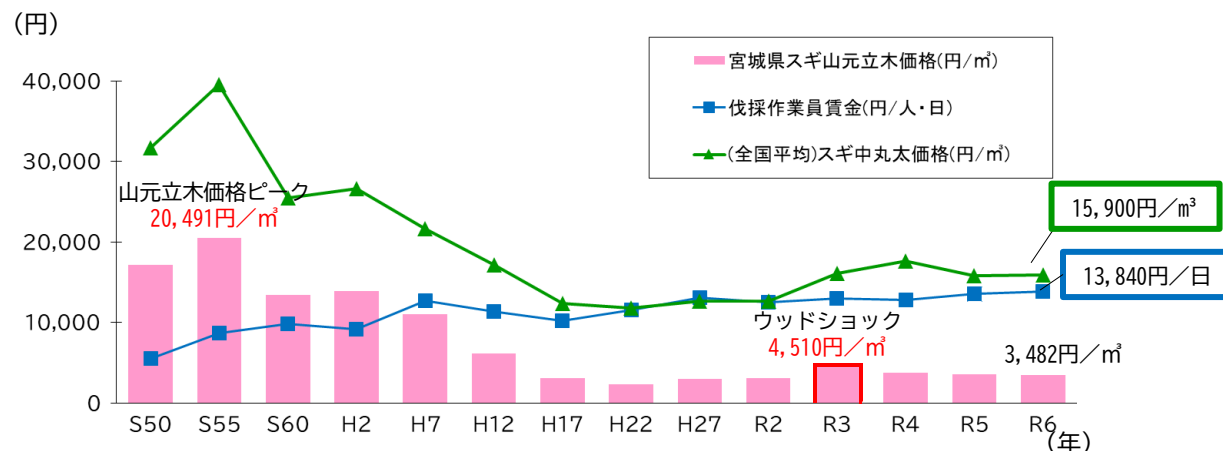


戦後植栽された人工林が、本格的な収穫時期を迎えている。



◀ 収穫時期を迎えたスギ人工林

(5) 山元立木価格の推移

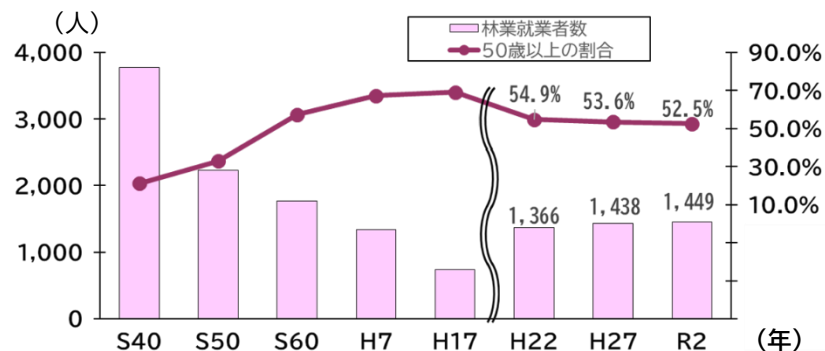


山元立木価格は昭和55年以降長期的に低下し、近年では、昭和55年のピークの約1/6となっている。

令和3年においては、ウッドショック等の影響により一時、山元立木価格が上昇したが、その反動で令和4年以降、下降している。

宮城県の森林、林業・木材産業の現状

(6) 林業就業者数の推移

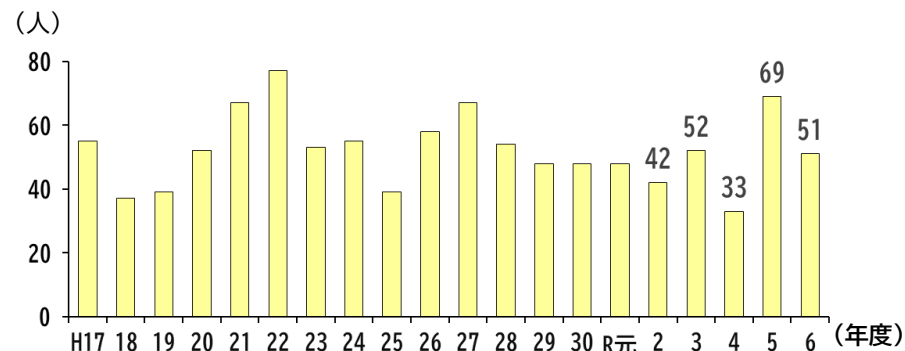


資料：国勢調査（総務省）

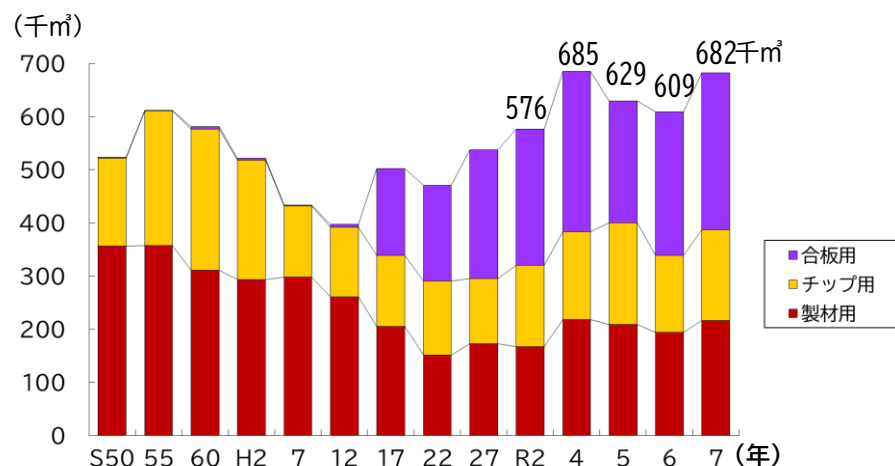
注：平成19年の「日本標準産業分類」の改定により、平成22年以降のデータは、平成17年までのデータと連続していない。

県内の林業就業者数は微増傾向にあり、新規林業就業者数は、近年50人前後で推移している。

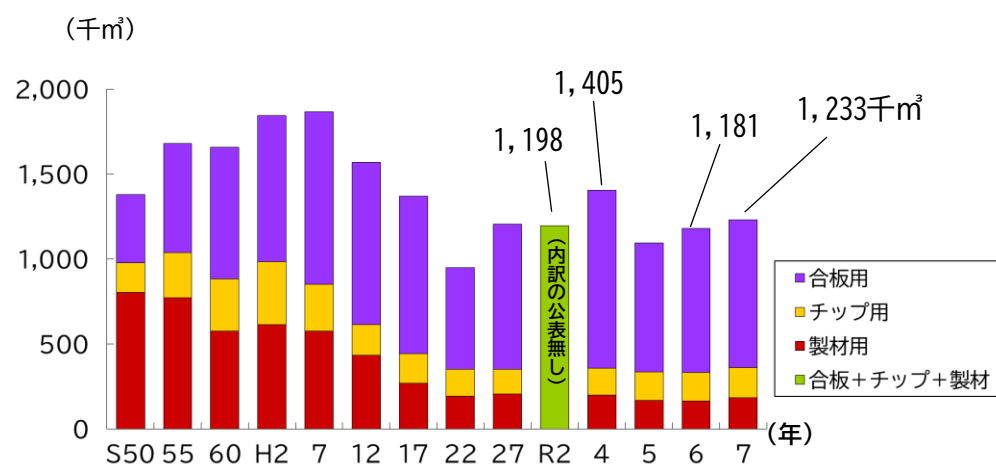
(7) 新規林業就業者数の推移



(8) 県内の素材生産量



(9) 県内の素材需要量



県内の素材生産量は近年は上昇傾向にあるが、素材需要量の半分程度に留まっている。

政策Ⅰ 林業・木材産業の一層の産業力強化

■主な施策の実施状況

①素材生産性を向上させる基盤整備（取組１）

川上側の高性能林業機械等の導入や、川中・下側の合板・製材工場等の木材加工流通施設の整備を支援した。【本文３頁】



グラップル付きバックホウ

②計画的な路網整備の推進（取組１）

効率的な林業経営や森林の適正な維持管理等を図るため、林道等の整備を推進した。【本文３頁】



林道「針浜線」に作設した土場

③県産木材の利用拡大（取組２）

C L T等を活用した建築物や、県産材を使用した木造住宅などの建築や内装木質化等を支援した。【本文６・７頁】



県産材を利用した木造住宅

④森林経営管理制度の推進（取組３）

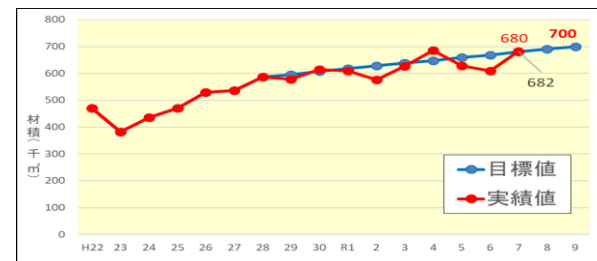
宮城県市町村森林経営管理サポートセンターと連携し、市町村への伴走型支援を実施した。【本文１０頁】



伴走型支援の実施

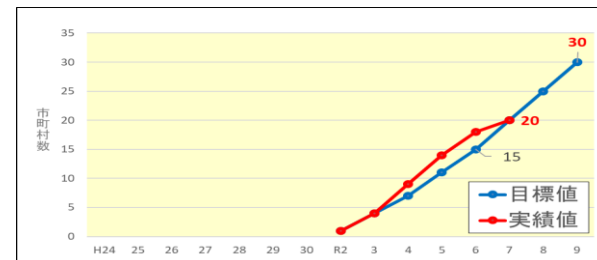
■主な目標指標の達成状況

◎素材生産量〔年間〕



長期的には増加傾向にあり、増減を繰り返しつつ、目標値付近で推移している。

◎経営管理権集積計画策定市町村数〔累計〕



圏域推進会議等における市町村との情報共有に加え、経営管理権集積計画の策定に向けた伴走型支援等を行ったことにより、目標値に達している。

政策Ⅱ 森林の持つ多面的機能のさらなる発揮

■主な施策の実施状況

①効率的な間伐等の推進（取組4）

森林の公益的な機能の高度発揮や安定的な木材供給のため、間伐や路網整備等を支援した。【本文13頁】



高性能林業機械を用いた間伐材生産

③松くい虫被害対策と松林景観の保全（取組5）

特別名勝「松島」等の重要な松林を守るため各種防除対策を実施するとともに、被害跡地に抵抗性マツの植栽等を行い、景観向上対策を実施した。【本文18頁】



ヘリコプターによる薬剤散布

②主伐・再造林の推進（取組4）

再造林の推進とともに、造林コスト低減のため、低密度植栽や下刈り回数の低減等の普及に取り組んだ。【本文14頁】



植栽の状況

④山地災害危険地区の計画的な整備（取組6）

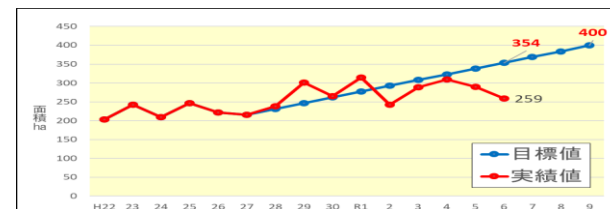
防災・減災、国土強靱化対策を進めるため、山地災害危険地区等における治山対策を計画的に推進した【本文21頁】



国土強靱化対策による治山施設

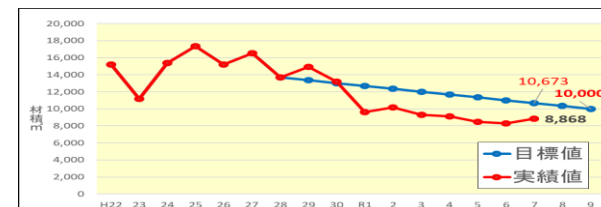
■主な目標指標の達成状況

◎植栽面積【年間】



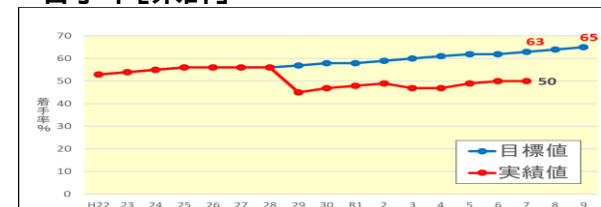
各種補助事業の活用等により、再造林の推進を図ったが、目標値を下回った。

◎松くい虫被害による枯損木量【年間】



薬剤散布等の予防対策や、駆除対策の継続的な実施により、枯損木量は目標より低減している。

◎山地災害危険地区(Aランク)の治山工事着手率【累計】



着手率は50%であり、目標値の8割程度となっている。

政策Ⅲ 森林、林業・木材産業を支える地域や人材の育成

■主な施策の実施状況

①就業環境の改善・人材育成の強化（取組7）

「みやぎ森林・林業未来創造機構」において経営基盤の強化や就業環境の向上に取り組んだほか、機構が運営するカレッジにおいて各種研修を実施した。【本文24・25頁】



カレッジの研修の様子

③新たな技術の開発・改良（取組9）

県民等のニーズを把握しながら、花粉症対策スギの開発や生産拡大、県産材による超厚合板及びきのこ品種の開発等に係る試験研究を実施した。【本文31頁】



高剛性床材モデルの
強度性能試験



きのこ新品種の開発

②地域・産業間の連携等（取組8）

特用林産物の収益向上に向けた支援や苔フェスティバルの開催など森林資源フル活用による交流人口の拡大を促進した。【本文28頁】



苔フェスティバル展示品

④県民理解の醸成（取組10）

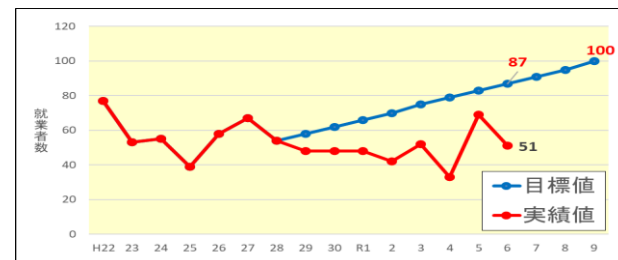
全国育樹祭の開催を通じ、森林・林業や木材等に対する県民の理解を醸成するとともに、全国に宮城県の森林・林業の魅力を発信した。【本文34頁】



全国育樹祭

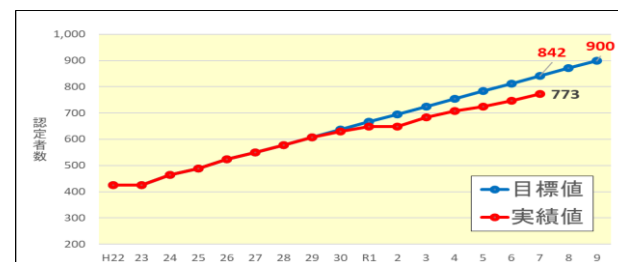
■主な目標指標の達成状況

◎新規林業就業者数【年間】



継続して人材確保に取り組んでいるが、近年は年間50人程度で推移し、目標値を下回っている。

◎宮城県森林インストラクター認定者数【累積】



森林インストラクター養成講座の開催により、毎年認定者数を増やし、令和7年度は目標値の9割程度となっている。

政策Ⅳ 東日本大震災からの復興と発展

■主な施策の実施状況

①復旧した海岸防災林の適切な維持管理 (取組11・12)

海岸防災林での適切な保育管理や海岸防災林として全国初となるJ-クレジットのプロジェクト登録を行った。【本文37・42頁】



保育管理が進む海岸防災林



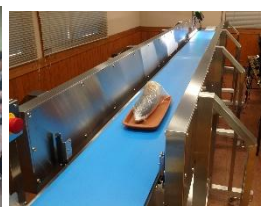
プロジェクト登録証

②特用林産物の新たな販路や需要の開拓と放射能汚染問題への対応 (取組11)

特用林産振興会と連携したPRや、放射性物質の検査徹底・原木購入支援等による出荷制限解除と生産拡大に取り組んだ。【本文37・38頁】



山の幸販売会



非破壊検査機による全量検査

③震災の教訓伝承と交流人口の拡大 (取組12)

育林交流集会の開催やバスツアーを実施し、震災の教訓伝承と交流人口の拡大を図った。【本文42・43頁】

【本文42・43頁】



育林交流集会



ツアーでの保育体験

④森林認証を核とした地域振興の推進 (取組12)

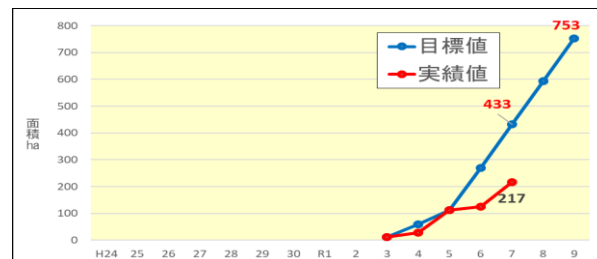
持続可能な森林経営を目指し、森林認証のPR活動等を支援した。【本文42頁】



森林認証材を活用した椅子

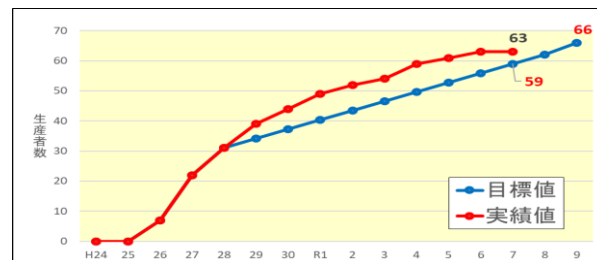
■主な目標指標の達成状況

◎海岸防災林の保育管理面積【累計】



植栽後の成長が遅れている林分も多く、現地の生育状況に応じて実施しているため、目標値に達しなかった。

◎原木きのこ出荷制限(自粛)解除生産者数【累計】



栽培管理指導や原木購入支援等により出荷制限の解除を進めており、目標値を上回っている。

5つの重点プロジェクト

プロジェクト1 新たな素材需給システムと木材需要創出

新たな木材需要の創出に向け、CLTを活用した製品の開発や設計・施工技術者の育成支援を行った。また、建築物木材利用促進協定の締結や、有用広葉樹の流通拡大に向けた普及啓発に取り組んだ。



広葉樹活用
ワークショップの様子

取組事例：建築物木材利用促進協定の締結

令和8年2月、都市の木造化推進法に基づく「建築物木材利用促進協定」を鹿島建設株式会社東北支店と締結しました。本県の同協定締結は初めてとなります。同社は本協定に基づき、社有施設等で宮城県産材を積極的に利用するほか、林業と建設業をつなぐ持続可能なサプライチェーン構築、中高層建築などの木造・木質化に向けた技術・知見の蓄積、木材利用の意義や取組の社外への情報発信を行い、民間建築物における県産木材の利用促進に協働して取り組むことになりました。



協定締結状況

プロジェクト2 主伐・再造林による資源の循環利用

林業採算性の改善に向けて再造林の省力化・低コスト化の実践を支援したほか、企業版ふるさと納税を活用し、スギ特定苗木による花粉症対策と再造林を推進した。



少花粉で成長の
早いスギ特定苗木

取組事例：企業版ふるさと納税を活用した再造林

令和7年度から、企業版ふるさと納税を活用し、スギ特定苗木による再造林の取組を新たに始めました。伐採後の確実な再造林は、CO₂吸収や防災といった森林の多面的機能を維持し、森林資源を未来へ継承するため、極めて重要な取組です。本取組では、企業の力を活用するという新たなアプローチにより、皆伐後に植栽されていない伐採跡地を花粉発生の少ない森林へ再生することを目指しています。



スギ特定苗木の植栽状況

5つの重点プロジェクト

プロジェクト3 経営能力の優れた経営者の育成、新規就業者の確保

「みやぎ森林・林業未来創造機構」を中心に、人材確保に向けて、就業環境の向上や林業のPR等に取り組んだほか、同機構が運営するカレッジにおいて各種研修を実施した。

取組事例：カレッジで高校生向け林業就職支援ガイダンスを新設
森林・林業への関心を高め、就職先の候補としてもらうため、高校生向けのガイダンスをカレッジの研修コースとして新設しました。県内で唯一の林業専攻科を有する大河原産業高等学校の3年生を対象として、就職までの流れや資格取得支援の紹介、林業事業体を招いた合同説明会を行い、地域林業を担う若手の確保を図りました。



合同説明会の状況

プロジェクト4 地域・産業間連携による地域資源の活用

森林認証材の普及PRや、県産きのこの魅力発信に向けた料理教室・販売会を開催した。

取組事例：森林認証材の活用
県庁2階食堂のリニューアルに合わせ、環境に配慮した適切な森林管理を行っている登米市産「FSC認証材」を活用したテーブルや椅子を導入し、多くの利用者に見て触れていただくことで森林認証材に関する理解の促進に努めました。



リニューアルした県庁2階食堂

プロジェクト5 海岸防災林の活用等による震災の教訓伝承と交流人口の拡大

みやぎグリーンコーストプロジェクトの取組として、海岸防災林の重要性等を普及啓発するバスツアーの開催や育林交流集会を開催したほか、J-クレジットの創出に向けた取組を支援した。

取組事例：育林交流集会の開催
第48回全国育樹祭の併催行事として、10月4日、名取市文化会館を会場に「地域と紡ぐ森林づくり～次世代へ伝えるメッセージ～」をテーマとした育林交流集会を開催しました。当日は県内外からの多くの方々を迎え、海岸防災林の大切さや役割について普及啓発を図りました。



開催の状況